

目 次

I 研究の概要

- 1 研究の背景 21
- 2 本研究における言葉の捉え方 21
- 3 研究のねらい 22
- 4 研究の仮説 22
- 5 研究の内容 22

II 研究の実際

- 1 アンケート調査の実施 23
- 2 アンケート調査の結果及び分析・考察 24
- 3 研修講座での取組 26

III 研究のまとめ

- 1 1年次の成果と課題 27
- 2 今後に向けて 27

■ 資料 31

■ 引用・参考文献 34

I 研究の概要

1 研究の背景

「* 学習指導要領解説 総則編」には、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする」ため、学習の質を一層高める授業改善の必要性が示されています。

本県の「令和6年度学校教育の指針」では、「問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく子ども」を育成するために「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実を図りつつ、正解のない問いにも果敢に挑戦しながら、未来を切り拓いていくことができるよう、今後も新たな時代に対応した学びを実現していくことを求めています。



図1 授業改善に関するこれまでの研究

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（令和3年1月26日）では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、「一人一人の子供を主語にする学校教育」を目指していることが示されています。

そしてこれまでセンター研究2では、平成30年度から視点を変えながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究に取り組んできました（図1）。

こうした背景を踏まえ、研究主題を「一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善」とし、研究を進めることとしました。

* 現行の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 学習指導要領解説 総則編を指す

2 本研究における言葉の捉え方

研究の1年次は、「子どもを主語にした学び」、「自律した学習者」を次のように捉えて研究を進めました。

「子どもを主語にした学び」とは、
子どもが自律した学習者として自らの学びをデザインしていく学び
「自律した学習者」とは、
自分に合った学び方を探したり、自らの学びを調整したりする学習者

3 研究のねらい

「一人一人の子どもを主語にした学び」の実現に向けて、授業づくりをする上での受講者が抱える課題や困難さを明らかにし、研修講座等を工夫するなど、授業づくりを支援することで、「一人一人の子どもを主語にした学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る。

4 研究の仮説

研修講座等において、「子どもが自律した学習者として、自らの学びをデザインしていく」という視点で授業を見直す場を設定するなど、授業づくりを支援することで、「一人一人の子どもを主語にした学び」の実現に向けた授業改善が推進されるであろう。

5 研究の内容

(1) 1年次（令和6年度）の取組

- ・研究の全体像を構想し、計画の立案・修正を行う「研究推進グループ」、受講者アンケートを作成し、分析を行う「調査・分析グループ」、受講者の授業づくりを支援するための手立てなどを検討する「講座内容検討グループ」の三つのグループを編成して研究を進めました。
- ・受講者の授業づくりに関する実態や、「一人一人の子どもを主語にした学び」の捉え方についてアンケート調査を実施し、その結果を分析して考察しました。
- ・授業づくりを支援するための研修講座を試行しました。
- ・「一人一人の子どもを主語にした学び」の具体や実践上の課題などを洗い出し、授業づくりを支援するための研修講座等に取り入れる要素を見いだして演習の内容を検討しました。

(2) 2年次（令和7年度）の取組

- ・1年次の成果等を踏まえ、授業づくりを支援する研修講座等を実施するとともに、受講者の授業づくりに関するアンケート調査を行います。研修講座等の内容は、受講者の研修リフレクションシートの記述やアンケート調査の結果を基に、随時見直しを図ります。

(3) 3年次（令和8年度）の取組

- ・2年次の研究の成果と課題を踏まえた研修講座等を継続して行い、3年間の研究の成果と課題をまとめます。
- ・研究を通して得られた資料等は、学校での授業改善に役立てていただけるよう取りまとめ、当センターウェブサイトで公開する予定です。

Ⅱ 研究の実際

1 アンケート調査の実施

授業づくりに関する受講者の実態や、「一人一人の子どもを主語にした学び」の捉え方について把握するため、5月から10月にかけて、19の研修講座でアンケート調査を実施しました。

[アンケート調査を実施した主な研修講座]

- ・実践的指導力習得研修講座（小・中学校、高等学校2年目）
- ・教職5年目研修講座（小学校）
- ・実践的指導力向上研修講座（小・中学校、高等学校8年目）
- ・中堅教諭等資質向上研修講座（小・中学校、高等学校11年目）
- ・資質・能力の育成に向けた社会科の授業づくり（小・中学校）
- ・生徒が科学的に探究する中学校理科の授業づくり
- ・育成する資質・能力から考える図画工作科の授業（小学校） など

アンケートの設問は、研究の背景や研究主題等を踏まえて、次の三つとしました。

- 設問① 「一人一人の子どもを主語にした学び」はどのような手立てや工夫、学習活動によって実現されると思いますか。（自由記述）
- 設問② 次のうち、あなたが意識して授業に取り入れている項目を全て選び、番号に○を付けてください。（10項目 複数回答）
- 設問③ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点による授業改善を進める上で、困難に感じることを教えてください。（自由記述）

アンケートの趣旨を、スライド資料を用いて説明しました（図2）。また、アンケートに回答することを通して、受講者一人一人がこれまでの授業を振り返りながら、これからの授業づくりについて考える機会となるよう工夫しました（図3）。

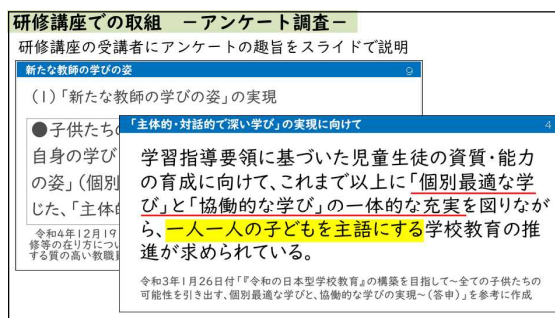


図2 アンケートの趣旨を説明するスライド

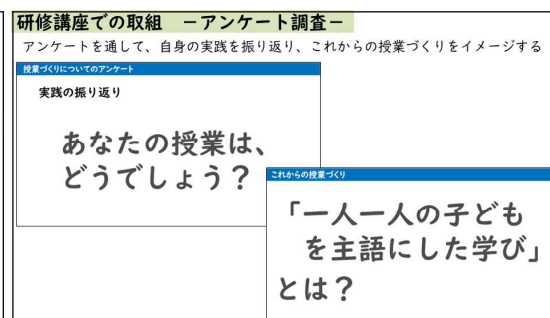


図3 自身の授業づくりの振り返りを促すスライド
(p31-33を参照)

2 アンケート調査の結果及び分析・考察

(1) 設問①の結果及び分析・考察

設問①の回答について、生成A Iによるテキストマイニングを活用し、キーワード、頻度、概略をまとめました（図4）。

抽出されたキーワードの「活動」「選択／選ぶ」「考える」「工夫」「時間」「環境」の概略から、受講者は手立てや学習活動において、「個別最適な学び」や「協働的な学び」につながる視点をもっていることが分かりました。また、キーワードの「学び／学ぶ」「課題」「主体的／主体」「ゴール／目標」の概略から、児童生徒が主体的に学びに取り組み、ゴールに向かって自ら学習を進めていくことの大切さに気付いていることを読み取ることができました。

アンケート調査の結果		
①「一人一人の子どもを主語にした学び」はどのような手立てや工夫、学習活動によって実現されると思いますか。（自由記述）		
生成A Iによるテキストマイニング（n=464）実施期間5月～10月		
キーワード	頻度(回)	概略
活動	136	協働的な学びや主体的な学習活動、実習など具体的な活動を通じて学びを深める手立て
学び／学ぶ	128	学びのプロセスや学習活動の工夫、主体的な学びを促すための手立て
課題	126	課題の設定や解決方法、課題を自分の事として捉えられるような学習活動
選択／選ぶ	78	学習方法や内容、課題解決の手段を子どもが自分で選べるような機会の提供
考える	67	子どもが自分で考える機会を提供し、協働的に思考を深めるための手立て
工夫	61	授業や教材、学習環境の工夫による子どもの学びのサポート
主体的／主体	58	子どもが主体的に学びに取り組むための学習環境や活動の工夫
ゴール／目標	58	学習の目標やゴールを明確にし、それに向かって進める手立て
時間	48	自分のペースで学習を進められるような時間の確保や、活動に適した時間配分の工夫
環境	16	学習環境の整備やICTの活用など、学びやすい環境を提供するための手立て

図4 設問①の結果

(2) 設問②の結果及び分析・考察

設問②について、受講者の回答をまとめました（図5）。

項目8の「クラスメイトとの協働」、項目1の「児童生徒による課題の選択・決定」、項目5の「個の興味・関心に応じた学習」、項目4の「児童生徒による学習時間の設定」の順で、選択率が高くなっていました。他の項目においても30%程度の選択率となったものが多く、児童生徒が自ら課題を選択・決定して学習を進め、協働的に学んでいくことにつながる活動を授業に取り入れていることを推察することができました。

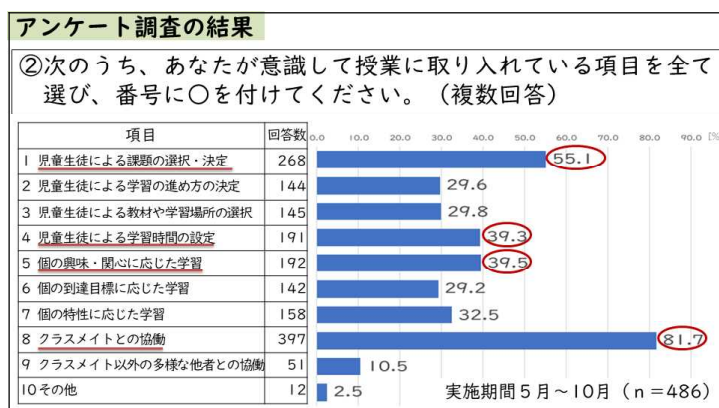


図5 設問②の結果

(3) 設問③の結果及び分析・考察

設問③の回答について、記述内容を分析しました（図6、7）。

回答数 464 の中には、受講者自身の理解不足に関する記述や、困難さとして児童生徒の「学力差」「認知特性の違い」「協働すると個が考えるのをやめる」などの記述が多数見られました（図6）。このように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点による授業改善を困難にしている原因の多くに、受講者の理解不足があることが明らかになりました。また、「個別最適な学び」や「協働的な学び」について、一定の理解を得ていると判断できた 140 名の回答を生成AIによるテキストマイニングを活用し、カテゴリと頻度をまとめました（図7）。特に図7の囲みで示したカテゴリについて、困難を感じる受講者が多いことが分かりました。

そのほか、カテゴリとして抽出されなかった回答の中には、具体的な取組への不安として、「どのように実践したらよいか分からない」、「一人一人の子どもの学びの見取り方や評価の仕方が分からない」、「単元構想やコーディネートの仕方が分からない」などの記述が見られました。

以上の調査結果及び分析・考察から、受講者の授業づくりに関する実態を、次のようにまとめました。

[受講者の授業づくりに関する実態]

- ・児童生徒が自ら課題を選択・決定して学習を進め、協働的に学んでいくことにつながる活動を授業に取り入れている受講者が一定数いる。
- ・「個別最適な学び」や「協働的な学び」についての捉えが不十分であり、具体的な授業のイメージをもてず、手立ての取り入れ方に不安や課題を抱えている受講者が多い。

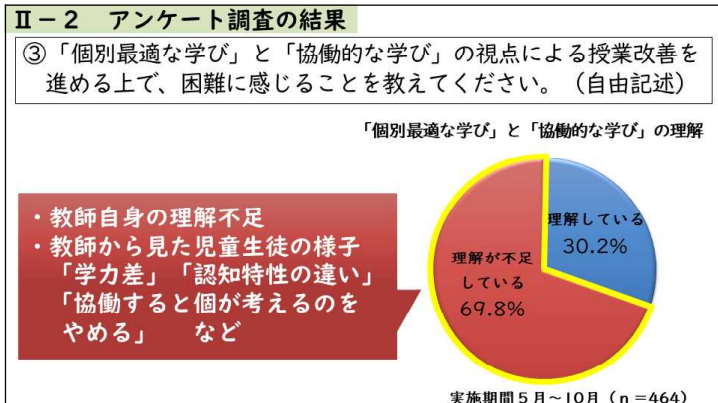


図6 設問③の結果

アンケート調査の結果

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点による授業改善を進める上で、困難に感じることを教えてください。（自由記述）

生成AIによるテキストマイニング（n=140） 実施期間 5月～10月

カテゴリー	頻度(回)	カテゴリー	頻度(回)
個別と協働の学びのバランス	69	学習成果の見取りと評価	19
協働的な学びの取り入れ方	48	教師の負担（準備や個別対応）	18
個別最適な学びの実現	47	ICTの活用方法	17
児童生徒の自主的な学習調整	43	タイムマネジメントとコーディネート	15
学習の進度やゴール設定	31	多様な学習ニーズに応じた支援	14

図7 設問③において「個別最適な学び」や「協働的な学び」に一定の理解があると判断した140名の回答結果

3 研修講座での取組

幾つかの教科で、「自律した学習者として、自らの学びをデザインしていく学び」を受講者が体験する研修講座を試行しました。学習者の立場で、自分に合った学び方を探したり、学びを調整したりする演習に取り組むことで、授業づくりや授業改善のヒントを得ている受講者の姿が見られました。

(1) 図画工作科の研修講座

学習者の立場で、造形遊びを体験する演習を行いました（図8）。自身の活動のめあて、場所や材料を決めて個別に活動しました。必要に応じて協力したり、活動の成果や気づきを受講者同士で共有したりしました。受講者の研修の振り返り票には、「児童の立場で体験することを通して、材料や表し方を試したり、修正したりしながら学ぶことのよさに気付くことができた」という記述がありました。児童の学びを実感するとともに、新たな気づきを得たことが読み取れました。

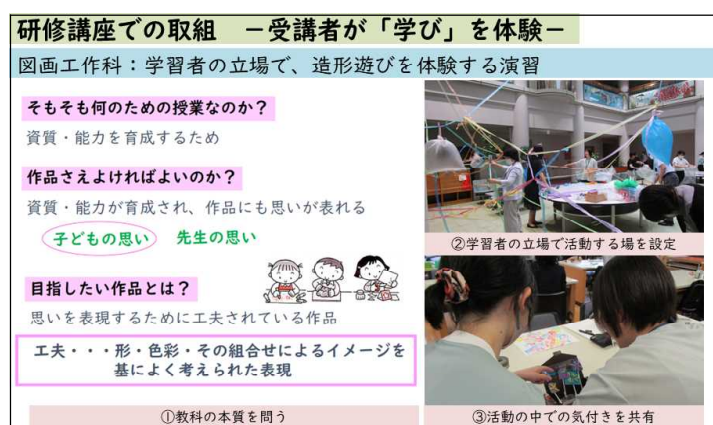


図8 研修講座での取組（図画工作科）

(2) 理科の研修講座

学習者の立場で、探究的な活動を体験する演習を行いました（図9）。課題を解決する方法を考えて必要な道具を選択し、個で探究を進めました。個の活動の途中で他の受講者に声を掛けて方法の妥当性を検討し、個の探究に戻って活動していました。その後、自分のペースでじっくり考えるか、対話しながら考えを広げるか、自分に合った学習形態を選択する姿や自分のタイミングで個の活動と協働を行き来したり、新たな課題を設定したりする姿が見られました。受講者の研修の振り返り票には、「生徒の立場で課題に対して実験を検証し、自分なりの結論を出す方法について考えることができた」という記述がありました。研修講座を通して、生徒が探究的に学ぶための手立てに気づき、授業改善に生かそうという意欲の向上が見られました。



図9 研修講座での取組（理科）

Ⅲ 研究のまとめ

1 1年次の成果と課題

<成果>

- 「一人一人の子どもを主語にした学び」の実現に向けた授業づくりに関して、受講者の実態を把握するとともに、どのような不安や課題を抱えているのかを明らかにすることができた。
- 研究に関わる研修講座を試行したり、研修講座等に取り入れる要素を見いだしたりするなど、演習の内容を検討することができた。
- アンケート調査や研修講座での演習を通して、受講者が自身の授業を振り返り、「一人一人の子どもを主語にした学び」について考える機会を設けることができた。

<課題>

- 受講者が「子どもが自律した学習者として、自らの学びをデザインしていく」という視点で授業づくりを見直し、具体的な教師の役割や支援の在り方を探ることができるように、研修講座等で継続的に支援していく必要がある。
- これまで以上に受講者との対話を大切にし、受講者と授業改善の方向性などを共に考えていく研修講座等を実施する必要がある。
- 研修講座等が受講者にとって最適な学びになるよう、受講者一人一人の実態や課題などに対応した講義や演習の組立てについて具体的に検討する必要がある。

2 今後に向けて

2年次は、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」の研究を生かしながら、研修講座等において、より具体的な授業づくりのための手立てに関する講義・対話・演習を実施していきます。また、受講者の授業づくりに関するアンケート調査を実施し、研修講座等で提示した授業づくりの有効性を検証して改善を図っていくことを計画しています。

(1) 研究2年次の研修講座の計画

1年次のアンケート調査から見えてきた受講者の実態を踏まえ、「一人一人の子どもを主語にした学び」の実現に向けた授業づくりの講座内容を検討しました。受講者の実態に対応するために、図10のA、B、Cに示した演習等を計画しています。

Ⅲ-2 研究2年次の計画

アンケート調査の結果から分かった受講者の実態

- ・授業改善の方向性についての理解不足、不安がある。
- ・具体的にどのように実践したらよいか分からない。
- ・単元（題材）構想やコーディネートの方が分からない。

講座の主な内容

A	具体的な実践例等を通して、学びの意図やねらいを他者と共有する講義・対話・演習
B	自身の現状を把握し、研修計画を立てる演習
C	自身の課題解決に向けて、選択して取り組む演習

図10 三つの講座内容（A、B、C）

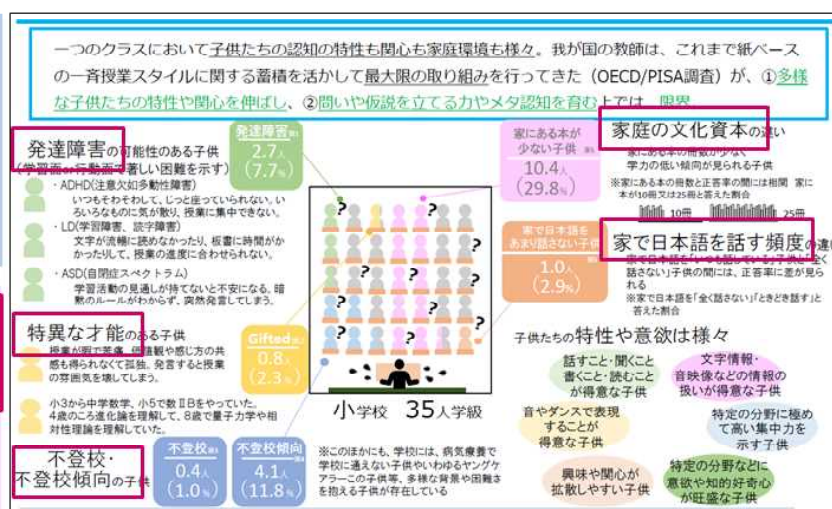
(2) A：具体的な実践例等を提供し、学びの意図やねらいを共有する講義・対話・演習
例えば資料（図11）を示しながら学習指導要領や答申等に関わる話題を提供し、一つのクラスに在籍する多様な子どもたちの特性や関心に応じた、資質・能力を育む学びの必要性について理解を促します。具体的な実践例（図12）を用いた対話や演習を通して理解を深め、実践につなげられるようにします。受講者による学校での実践や、令和5年度のセンター研究2で作成した手引を活用するなどし、受講者が実際の授業をイメージできるように授業づくりを支援していきます。

研究2年次の計画

A
具体的な実践例
等を通して、学
びの意図やねら
いを共有する講
義・対話・演習

○答申等の背景となる話題の提供をする。

○学びの意図やねらいについての対話・演習を行う。 など



教育DXの先にある学びのあり方と学校の存在意義—これからの学校教育に求められるもの—（合田哲雄／全国教育研究所連盟総会・研究発表会資料）から抜粋

図11 学習指導要領や答申等に関わる資料

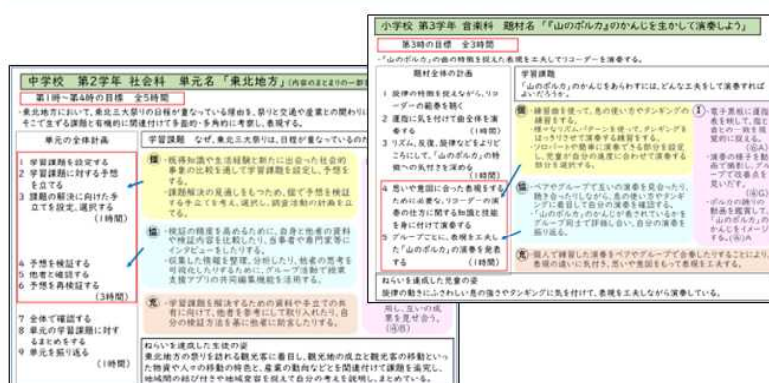
研究2年次の計画

A
具体的な実践例
等を通して、学
びの意図やねら
いを共有する講
義・対話・演習

○答申等の背景となる話題の提供をする。

○学びの意図やねらいについての対話・演習を行う。 など

昨年度までのセンター研究2で作成した「手引」なども活用
して実際の授業をイメージできるようにする



「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善（手引）」（令和6年2月 秋田県総合教育センター）から抜粋

図12 具体的な実践例

(3) B：自身の授業づくりについて現状を把握し、研修計画を立てる演習

受講者自身が、今できていることやこれから学びたいことを把握し、研修講座の学びを生かして研修計画を立て、勤務校で授業改善に取り組むことを目指します（図13）。

研究2年次の計画					
B 自身の現状を把握し、研修計画を立てる演習 ○研修講座等で学んだことを踏まえ、自身の授業づくりの現状や学校の実態に応じた研修テーマを設定する。 ○学びを生かす実践の具体を計画し現場で取り組むことで、理論と実践の往還を図る。 など	自己研修計画 研修テーマ 身に付けさせたい資質・能力と手立て・アイデアの具体 <table border="1"> <thead> <tr> <th>身に付けさせたい資質・能力</th> <th>手立て・アイデア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 〈例〉 生徒が自分で学びたいことについて、自分で学習計画を立てることができる。 </td> <td> ①単元を貫く学習課題の設定後、予想する時間を確保する。 ②予想をカテゴリごとに分類し、単元を貫く学習課題を解決するための視点を明らかにする。 ③予想を基に、生徒がそれぞれこの単元で学びたいことを明らかにし、ICTを活用して全体で共有できるようにする。 ④予想を検証するための学習計画を立てる。 </td> </tr> </tbody> </table> 自己研修計画を立てる演習シートのイメージ	身に付けさせたい資質・能力	手立て・アイデア	〈例〉 生徒が自分で学びたいことについて、自分で学習計画を立てることができる。	①単元を貫く学習課題の設定後、予想する時間を確保する。 ②予想をカテゴリごとに分類し、単元を貫く学習課題を解決するための視点を明らかにする。 ③予想を基に、生徒がそれぞれこの単元で学びたいことを明らかにし、ICTを活用して全体で共有できるようにする。 ④予想を検証するための学習計画を立てる。
身に付けさせたい資質・能力	手立て・アイデア				
〈例〉 生徒が自分で学びたいことについて、自分で学習計画を立てることができる。	①単元を貫く学習課題の設定後、予想する時間を確保する。 ②予想をカテゴリごとに分類し、単元を貫く学習課題を解決するための視点を明らかにする。 ③予想を基に、生徒がそれぞれこの単元で学びたいことを明らかにし、ICTを活用して全体で共有できるようにする。 ④予想を検証するための学習計画を立てる。				

図13 自己研修計画を立てる演習シート（例）

(4) C：自身の授業づくりの課題解決に向けて、選択して取り組む演習

「既存の指導計画や学習指導案を検討し直すのか、新たに構想するのか」、「構想するのは単元（題材）か単位時間か、あるいは場面か」、「個で演習を進めるのか、複数人で進めるのか」など、受講者自身が課題解決に向けて、選択して演習に取り組みます。演習では、令和5年度のセンター研究2で作成した演習シートを活用します（図14）。

Ⅲ－2 研究2年次の計画	
C 自身の課題解決に向けて、選択して取り組む演習 ○受講者が自身の授業づくりの課題に合わせ、複数の演習から選択する。 ・既存の学習指導案を検討して加筆修正を行う。 ・単元（題材）又は単位時間の構想をグループ協議で行う。 ・単元（題材）又は単位時間の構想を個で行い、共通の視点で協議する。 など	演習シート①「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点を取り入れた授業構想 【スタート】学習課題 学習シート②「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点を軸とした授業構想 単元・単元（題材） 学習場面（活動） 個別最適な学び 協働的な学び スタート学習課題 ゴール「何らかしを達成した授業改善の姿」 学習指導案 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善（手引）」（令和6年2月 秋田県総合教育センター）から抜粋

図14 自身の授業づくりの課題解決に向けて、選択して取り組む演習シートなど

同じ教科や異なる教科の受講者でグループを編成し、対話・協議を行うことで、授業構想やコーディネート仕方が広がったり、深まったりすることが期待できます。協議の際に、授業づくりの視点を示した演習シートの活用を検討しています（図15）。

研究2年次の計画



異なる教科を担当する教師による協議
(令和6年度学校支援講座・中学校)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るために

講座番号	—	実施日	／	教科
受講者№	学校名			氏名

授業における取組例

①個別最適な学び

- ◇児童生徒による課題の選択・決定
- ◇児童生徒による教材や学習場所の選択
- ◇個の興味・関心に応じた学習
- ◇個の到達目標に応じた学習

◇児童生徒による学びの進め方の決定

◇児童生徒による活動時間の設定

◇個の学びに合わせた学習

◇協働

②協働的な学び

◇クラスメイトとの協働

◇クラスメイト以外の多様な他者との協働

1 個別最適な学び	受講者からの感想・意見
①	
②	
③	

2 協働的な学び

①

SAMPLE

授業づくりの視点を示した
演習シートのイメージ

図15 協議で活用する授業づくりの視点を示した演習シート（例）

いずれの研修講座等の内容も、受講者が勤務校における自己研修や校内研修会に活用できるものにしていく予定です。

各教科の研修講座等で、「一人一人の子どもを主語にした学び」の実現に向けた授業づくりを受講者と共に考え、具体的な実践に結び付けながら、授業改善の推進を図っていきたいと考えています。



アンケート調査で使用したスライド資料

令和6年度

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

秋田県総合教育センター
教科・研究チーム

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

児童生徒が、「学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける」ことができるようにするため、これまでの学校教育の蓄積を生かしながら**学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していく**ことの必要性が示されている。

↓

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

小学校、中学校、高等学校及び学習指導要領解説 総則編 を基に作成

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて、これまでに以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、**一人一人の子どもを主語にする**学校教育の推進が求められている。

令和3年1月26日付「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」を参考に作成

「個別最適な学び」

全く新しい考え方ではありません

指導の個別化・学習の個性化

教師視点
個に応じた指導

学習者視点で整理
個別最適な学び

これまでも「個別化教育」「学習指導の最適化」など、個性や能力、自主性を生かした学びは実践されてきましたが、一層の充実が求められています。

（文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年）」を基に作成）

「個別最適な学び」

「個別最適な学び」のpoint!

- ・「指導の個別化」→学習内容の確実な定着を目指して
- ・「学習の個性化」→学習を広め、深めることを目指して

どちらも、児童生徒が「自ら学習を調整」しながら「自らに合った学習の進め方」を考え、選択していけるよう工夫する。



「協働的な学び」

協働的な学び

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないように

- ・児童生徒同士であるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する。



クラスメイトと



他校の児童生徒と



地域の人と



専門家と

- ・児童生徒のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わざり、よりよい学びを生み出していくようにする。

(文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年)」を基に作成)

「協働的な学び」

「協働的な学び」のpoint!

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら学びを充実する。

「一体的な充実」

「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」を一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。



新たな教師の学びの姿

「新たな教師の学びの姿」の実現

子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」）を実現。

令和4年12月19日付「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」を参考に作成

新たな教師の学びの姿

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「**主体的な姿勢**」
- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「**継続的な学び**」

令和4年12月19日付「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」を参考に作成

新たな教師の学びの姿

- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「**個別最適な学び**」
- 他者との対話や振り返りの機会を確保した「**協働的な学び**」

令和4年12月19日付「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」を参考に作成

授業づくりについてのアンケート

実践の振り返り

あなたの授業は、
どうでしょう？

これからの授業づくり

「一人一人の子ども
を主語にした学び」
とは？

<引用・参考文献>

- 秋田県教育委員会(2024)『令和6年度学校教育の指針』
- 秋田県総合教育センター(2019)『平成30年度研究紀要 50集』
- 秋田県総合教育センター(2020)『令和元年度研究紀要 51集』
- 秋田県総合教育センター(2021)『令和2年度研究紀要 52集』
- 秋田県総合教育センター(2022)『令和3年度研究紀要 53集』
- 秋田県総合教育センター(2023)『令和4年度研究紀要 54集』
- 秋田県総合教育センター(2024)『令和5年度研究紀要 55集』
- 合田哲雄(2022)『教育DXの先にある学びのあり方と学校の存在意義ーこれからの学校教育に求められるものー』(全国教育研究所連盟総会・研究発表会 講演資料)
- 中央教育審議会答申(2021)『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』
- 中央教育審議会答申(2022)『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～(答申)』
- 東京学芸大学附属世田谷小学校(2023)『学びを自分でデザインする子どもを育てる学校』東洋館出版.
- 奈須正裕(2021)『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社.
- 奈須正裕(2022)『個別最適な学びの足場を組む。』教育開発研究所.
- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房.
- 文部科学省(2017)『特別支援学校学習指導要領解説 総則編』開隆堂.
- 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省(2021)『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料』
- 荒瀬克己(2021)NITS校内研修シリーズN0.94「令和の日本型学校教育」の構築を目指して.
<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/094.html>
- 荒瀬克己(2023)NITS基礎的研修シリーズN0.28新たな教師の学び.<https://www.nits.go.jp/materials/basic/028.html>

センター研究2

一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善（3年計画・1年次）



研究のねらいー研究主題についてー

**一人一人の子どもを主語にした
学びの実現に向けた授業改善**

「子どもを主語にした学び」

子どもが自律した学習者として、
自らの学びをデザインしていく学び

（研究1年次の捉え）

研修講座での取組 ー受講者が「学び」を体験ー

理科：学習者の立場で、探究的な活動を体験する演習

**中学校
「運動とエネルギー」**

①解決に必要な道具を個で選択 ②実験方法の妥当性を検討

**小学校
「月と太陽」**

①個のペースでじっくり思考 ②考えを広げるための協働

研究2年次の計画

異なる教科を担当する教師による協議
（令和6年度学校支援講座・中学校）

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を達成するために

項目	実施状況	備考
① 授業計画		
② 授業実践		
③ 授業評価		
④ 授業改善		

授業づくりの視点を示した
演習シートのイメージ

主幹(兼) T L
主任指導主事
指導主事

相部小細赤鈴金田小根菅小野	馬谷森谷川木岡口宅森本原寺	靖哉林嗣智直峰茂大英仁	仁子子子昭美人子子道輔明志
---------------	---------------	-------------	---------------